



もくせい苑 施設外就労 ぶどう棚の掃除



伊豆の国市田方福祉村に拠点を置くぬくもりの里は令和6年度、開設満30歳という大きな節目を迎えました。同時に関連施設であるプレーゲおおひとは10周年、障がい施設あおの家の、もくせい苑はそれぞれ28周年、35周年を迎えました。時の流れの速さをあらためて感じるとともにこれまでの苦難・労苦・喜びなどが思い出され、自省の念もまた沸き起こってきます。石川現理事長が初代施設長としてぬくもりの里を立上げ基礎を築き、以来増床や新たな高齢者及び障がい施設の建設を経て開設当初の職員数50名足らずから今や200名と実に4倍となりました。言うまでもなく今日を迎えることができたのは理事長始め法人及び行政関係各位のご指導、利用者ご家族様ボランティアの皆様のご支援、ご協力の賜物であり改めて感謝申し上げますと同時に現場をしっかりと守ってきてくれた職員の懸命な努力に感謝と称賛を送る次第です。

開設より今日まで試行錯誤を繰り返しながら追い風、向かい風吹く中、各種事業を展開してきました。この先は先見の明を持ち、場当たり的でなく計画的事業遂行と賢明な判断しかしながら柔軟に対応できる良い意味での変わり身の早さも必要かと思えます。賃上げ、物価高への対応、経営安定、介護現場の人材不足解消や処遇改善など避けて通れない問題、課題は山積しており問題解決への道は険しいかと思えます。

そんな状況下ですが私たちは愚痴や不満を漏らしている場合ではなく、他力本願ならぬ自力本願で自分たちがなさなければならぬことは成すべきこととして成し、基本である質の高い介護力の維持・向上を図りながら今後の新たな事業展開、虐待・事故防止、人材の確保・育成、AI・ICT化の推進、生産性の向上そして地域への貢献も忘れずに取り組んでいきます。

ぬくもりの里は30周年を迎えましたが先人たちの築いてきた尊い財産を守りつつこれまでに培ってきた知識・技術、経験、信頼、介護力を生かし今後も私共施設の存在意義を示せるよう努めてまいりたいと思えます。

「ぬくもりの里開設30周年と 今後を思うこと」

ぬくもりの里 施設長 飯田 忠



第28回 社会福祉法人 春風会

合同職員研究発表会

令和7年5月29日(木)に沼津プラサヴェルデにおいて、第28回法人合同研究発表会が開催されました。研究発表会は全施設で研究成果を共有し施設サービス向上に役立てることを目的に毎年開催しています。

はじめに、石川三義理事長より、「合同研究発表会は春風会の職員が地域と高齢者・障がい者・保育等の職種の枠を超えて一堂に介する唯一の機会です。法人は、この研究発表会を法人職員の人材育成

や福祉サービスの改善・向上、働きやすい職場環境づくりのための重要な事業として位置づけ取り組んできました。今年で28回目となります。

今年、法人は創立50周年を迎えますが、今後も地域の皆様や利用者・家族・行政関係者の皆様の信頼と期待に応えながら、職員一同が心を一つにして、社会福祉の充実と地域福祉の向上のために頑張つていただくことをお願い致します。」と挨拶されました。

続いて職員の永年勤続表彰が行われ、三十年勤続表彰、二十年勤続表彰、十年勤続表彰合わせて五十一名の方が表彰されました。

研究発表は一部、二部に分かれて計九題がそれぞれ十分間で発表がありました。今年度は優秀賞に三題が選ばれました。たので、ここに紹介させていただきます。いただきます。



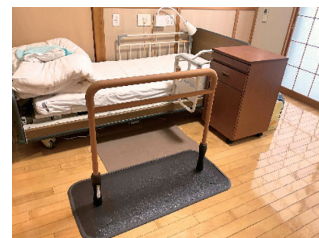
「簡易手すりの導入」 ～夜を共に守るパートナー～ あしたかホーム短期入所 +作業療法士

夜間帯にセンサーコールが重なり、利用者の元へいち早く駆け付ける事は難しく、居室での転倒・転落のアクシデントやヒヤリハットが生じている。また、利用者が転倒するのではないかという職員の精神的負担が大きい現状にある原因に、居室内の動線上に移動を補助する手すりの設置が無く、安全性が低い事が考えられる。そこで、OTの提案で簡易手すりを導入し、居室内での自立度や転倒・転落リスクの軽減にどのような効果があるか検証を行った。

取り組み内容は、次の6つである。
①居室内の自立度の変化について・手すり使用者の7割に自立度の向上がみられる

②対象者5名のADLの変化とヒヤリハット件数の推移・ADLは低下しているが、ヒヤリハット件数は減少・維持している

③利用者様アンケート実施・利用



結果、簡易手すりを設置する事で居室内に安全な動線が作られ、利用者の自立度・安全性の向上に繋がった。同時に、対応の優先順位が明確になり職員の精神的負担が軽減した。職員による過訪室が減少した事で利用者のプライバシーが守られ、自身のペースで過ごしていただく事ができた。

簡易手すりの導入によって居室内動線の安全性は高まったが、あくまで職員主導で作られた動線上の事に過ぎない。どの利用者にも思いのままに居室で過ごしていただきたいし、それを妨げてはならない。それには、利用者の社会的背景や行動特性を情報収集し、その人らしく過ごせる居室レイアウトの企画が必要だと感じる。

- ④職員アンケート実施 身体的・精神的負担軽減率 71%
- ⑤自宅訪問
- ⑥取り組み前後

「デイサービスとの交流を通じて」

「デイのおばあちゃんから
〇〇おばあちゃんに」

あまぎ認定こども園



「おじいちゃん、毎日新聞読んでいた」との気づきからひまわり新聞を制作しデイサービスに届けた。新聞

園は複合施設という特徴を活かし、『子どもと高齢者、障がいのある方と、日常的に触れ合う中で思いやりの心と命の大切さを育む』を理念としている。昨年度から交流では互いに名前呼び合うように交流を行った。ひまわりのせいぐらベコンテストへの応募では、種のまき方をお年寄りから話を聞く機会をもった。お年寄りの名前は、担任がホワイトボードに写真と共に貼るだすようにすることで子ども達はすぐに覚えていた。一緒にひまわりの種まきや水やりを行うと手際の良さに感心したり、自分たちとお年寄りの歩き方の違いを知り、ゆつくりと合わせて歩いたりなど優しさが育っていることも感じられた。

暑い夏には、お年寄りが戸外に出られないことが多く、ひまわりの成長を伝える方法を子ども達と話し合った。



を見たお年寄りにたくさん褒めていただいたことで、子ども達の自信に繋がった。また、コンテストでは交流の様子をまとめ、優秀賞をいただき、保育者の自信にも繋がった。新年には21人の子ども一人一人がお年寄りに名前入りの年賀状を書いて渡すこともできた。お年寄りとの交流は甘えたり、褒められたり、知識をいただいたり、と良いこと尽くしのものとなった。これからも3施設の交流をすすめていきたい。

「入居者・職員ともに安全で安心であること」

「プラスご家族も安心であること」

プレーグあしたか

「入居者・職員ともに安全で安心であること」はプレーグあしたかの施設目標である。この目標を達成するために以前より「物・空間の見直し」、「時間の見直し」、「人の見直し」に取り組んできた。今年度は「時間の見直し」の観点から、『記録時間の短縮』に取り組むことにした。記録時間短縮による余剰時間の発生により、行事や外出支援の充実（入居者の安心度向上、職員の休憩時間の確保（職員の安心度向上）、職員の勉強会充実（職員の安心度向上）の効果があつたという仮説を立てた。具体策として①iPadの増台（3台から6台）②インカム

の増台（8台から10台）③ケアカメラliveの導入（ご家族が携帯電話で記録を見られる）を実施した。

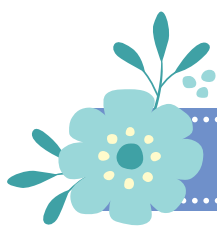
取り組み後、介護・機能訓練の記録時間の短縮ができた。その結



果、プラスアルファの行事（梅雨の小運動会やミニ秋祭り）、外出支援（二丁に合わせた買物外出、自宅訪



問など）を実施することができた。またプラスアルファの勉強会は、高次脳機能障害の方への対応や酸素ボンベの取扱い、看取り支援の方への食事提供など日頃業務を行う上で職員が不安に思っていることを行った。ご家族からも「面会に行かなくても、リアルタイムで様子がわかるので助かります」、「退院する時は先生からはもう食事は無理と言われました。プレーグに戻って少しづつでも食べられるので本当に良かったです」などの声をいただいた。入居者・職員ともに安全で安心であること、を続けていくことが、プラスご家族も安心であることに繋がっていると考えられている。



令和7年度 特別表彰・永年勤続表彰



30年勤続表彰者

飯田 忠(ぬくもりの里)
藤原美知子(みはるの丘浮島)
佐藤 知子(伊豆中央ケアセンター)
石川久美子(あおばの家)

20年勤続表彰者

高本 幸子(はら通所)
小野由利子(あしたか訪問)
山田 美子(伊豆中央ケアセンター)
仁科 真穂(伊豆中央ケアセンター)
佐々木幸子(天城通所)
杉山 正彦(修善寺包括)
増田 えみ(ぬくもりの里)
久代 円(プレーグおおひと)
落合 温子(あおばの家)
井川 瑞樹(もくせい苑)
石戸 君江(サポートセンター絆)
工藤 英治(みはるの丘浮島通所)

10年勤続表彰者

内田 雅史(あしたかホーム)
市川真由美(あしたかホーム)
大橋 絹子(あしたかホーム通所)
佐々木英助(あしたかホーム通所)
植松 千恵(あしたかホーム通所)
伊藤 真紀(プレーグあしたか)
竹田 陽(プレーグあしたか)
三澤 圭司(伊豆中央ケアセンター)
勝又智恵子(伊豆中央ケア通所)
原 祐樹(伊豆中央ケア通所)
安田 恵美(伊豆中央ケア訪問)
真田 直美(伊豆中央ケア訪問)
飯田 志美(ふれあい通所)
秋山由季子(ふれあい通所)
鈴木 尚子(ふれあい通所)
石野 弘美(修善寺包括)
後藤 雅一(ぬくもりの里)
谷村 美穂(ぬくもりの里)
木内 円香(ぬくもりの里)
足立 尚美(ぬくもりの里)



西尾けい子(ぬくもりの里)
渡邊 早苗(プレーグおおひと)
神藏 操(プレーグおおひと)
木村 幸子(プレーグおおひと)
岡田きよみ(プレーグおおひと通所)
芦川 彩香(プレーグおおひと通所)
菅尾佐知子(あおばの家)
小野田栄子(もくせい苑)
橋本 結花(みはるの丘浮島)
曾根 弘美(みはるの丘浮島)
笠間 由香(みはるの丘浮島通所)
横田 幸子(みはるの丘浮島通所)
大河 達也(みはるの丘浮島居宅)
山田 知美(沼津市立高尾園)
石川 迅(法人本部)

新たな仲間たちを迎えて

令和7年度 社会福祉法人春風会 新規採用職員辞令交付式

新規採用された皆さんへ

社会福祉法人春風会 理事長 石川 三義

新規学卒者の皆さんは本日晴れて春風会の職員として、そして社会人としての第1歩を踏み出しました。緊張と不安、緊張に胸を膨らませ、これから頑張っていくという思いを皆さん一人ひとりが抱いていると思います。私たちも皆さんを心から歓迎申し上げます。春風会は50年の歴史を持つ法人です。この50年間、堅実に着実に地域から本当に高い評価を得て来ました。それは多くの先人・先輩方が一步一步築いてきた法人の足跡です。皆さん方にはその歴史と伝統をしっかり守っていただき、これからも地域のお年寄りや障がい者、あるいは子供たちのために全力で力を尽していただきたい。私たちの仕事は、皆さんの人格や言葉遣い、表情など全身全霊すべてが相手に影響を及ぼすものです。皆さんもその様な気持ちでこれからの仕事に従事していただきたいと思います。



春風会では、令和7年4月1日に今年度採用の新規職員の辞令交付式を行いました。今年度の同日付け新規採用職員は学卒者8名です。式では全員に辞令交付が行われ、新規採用職員を代表し、沼津市立高尾園介護職員として勤務する上田千皓さんが代表挨拶を述べ、石川理事長からの訓示が行われました。

新施設長の紹介

春風会では令和7年4月の組織改革により2名の新施設長が赴任しました。



あまぎ認定こども園

園長 飯田 澄雄

不思議な縁に導かれて、この4月よりあまぎ認定こども園長となりました飯田澄雄と申します。どうぞよろしくお願い致します。

今までの義務教育38年間、公立園3年間の経験を、春風会の皆様からご協力いただきながら十分に生かせるよう励んでいきたいと思っています。

本園の強みは、自然豊かな環境のもと、天城デイサービスとプラムが一体となった複合施設という点にあります。この強みを基にして、保護者や本園職員を含めた「チームあまぎこども園」としてスクラムを組み、インクルーシブ教育、園児の心の豊かさ（道徳心）の育成、確かな人権意識の確立を目標に全職員一丸となって取り組んでいきます。



プレーゲおおひと

施設長 大島 健司

27年前、ぬくもりの里板垣前施設長より「君は将来春風会の幹部になれ」と私に何度も話されました。

「はい。なれるよう努力します!」と約束したことを今でも覚えています。

その約束は何とか果たせましたが、今思えばその位の気持ちで仕事に臨めとのメッセージだったと思います。未経験から介護の仕事をスタートし先輩から多くの教をいただき、ここまで支えていただいたと痛感しています。プレーゲおおひと施設長という重責と向き合い、これからも日々感謝の気持ちを忘れずに職員一丸となってご利用者、ご家族の想いに寄り添った施設を目指していきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

静岡県インドネシア特定技能現地 合同面接に参加して

あしたかホーム 深沢 康久

「道路には車と家族を載せたバイクがひしめき合い、路地にはたくさんの人と屋台、しゃがむと猫たちが近づいてきます。」これはインドネシアという国を肌で感じた最初の体験です。食べ物とはとても美味しく、街は陽気で気持ちの穏やかな人たちであふれ、数日滞在しただけですが、この国がとても好きになりました。

赤道をまたぎ、たくさん島からなるインドネシアの国土は日本の5倍ほど、人口は世界4位の約2.7億人です。総人口の5割が30歳未満という若い国はとても元気があり、街にはすさまじいパワーを感じます。

私たちは、首都ジャカルタから車で5時間ほど走った町バンドンで合同面接会に参加しました。一般企業に交じり、県内5つの社会福祉法人とともに面接会に挑みました。

合同面接会の主催者の話では、インドネシア国内から日本で働きたい方2000人ほどの応募があり、書類選考等で250人に絞り、介護分野では80名程の方が面接会に参加することができたと聞いています。

私も、2日間で13名の面接を予定し、お話を伺えた方からは、日本語力や介護に対する経験など個人差が大きいと感じましたが、



日本に来て働きたいという意思は皆さん強くお持ちでした。その中で、専門性や人間性、適応能力などを考慮し、2名の内定者を決定しました。

日本で働きたいと思った動機を皆さんに聞くと、日本の文化に触れたいという動機が多く、「日本は安全な国」「街がとてもきれいだ」「富士山をみたい」「日本のおいしいスイーツを食べたい」と話す方の中、特に多かったのが「日本のアニメに興味がある」「日本のアニメをみて、日本にあこがれていた」という方々でした。

また、面接に来た20代の女性から、人のお世話をする仕事は誇りを持って働ける良い仕事だと言っていた方がいました。とても嬉しく思いました。人に親切に家族思い、人前で怒ることは恥ずかしいこと、困っている人がいたらみんなで助け合う、私が出会った街の路地の猫たちもそんな国民性の人たちに守られているのだと感じました。

今回は、採用につながる面接ができ、たくさんのお出会いとインドネシアという国を肌で感じた実りの多い面接会となりました。

法人統一 『顧客満足度調査』 の実施結果から見えるもの



実施期間

令和6年10月～令和7年7月

調査方法

アンケート方式：郵送または直接配布したアンケートに無記名で記入していただき、郵送または手渡しで回収



対象サービス・人数

39事業所 延べ人数 3,227名 回収率 76.9%

対象サービス	事業所数	配布数	回収率	特徴的内容
特別養護老人ホーム(地域密着型含む)	6	364名	74.2%	終末期介護について
短期入所生活介護(介護予防含む)	5	242名	62.8%	荷物の紛失について
通所介護(介護予防・認知症型含む)	8	705名	81.4%	取り組みたい活動
訪問介護(障害事業含む)	4	308名	94.5%	災害時に困ること
居宅介護支援・介護予防支援事業所	10	1,444名	72.8%	ケアプラン作成に意見の反映について
小規模多機能型居宅介護支援	2	44名	86.4%	通い・泊り・訪問サービス頻度
生活介護・就労継続支援	4	120名	89.2%	利用日数・曜日・時間帯について

令和7年度、社会福祉法人春風会は法人創設50周年を迎えます。今回、50周年を機に、法人福祉の原点に立ち返り、これまでの福祉サービス事業を利用者視点からもう一度見直し、次の半世紀に向けて前進するために、20年ぶりに法人の全利用者（高齢者・障害児者等）を対象にした『顧客満足度調査』を実施しました。

回収率は、施設・事業所ごとに若干の差がありますが、概ね85%台の高い回収率となっており、多くの利用者・家族から回答・協力いただいたことに改めて感謝いたします。この「満足度調査」の結果は、法人の各施設・事業所ごとに職員会議・研修の資料として活用しながら、今後の福祉サービスの取り組み・改善、創意工夫に活かしていきます。

特養ホームの調査項目としては、「当施設を選んだ理由は」、「事務窓口職員、介護職員、看護職員等の対応について」、「食事内容」、「リハビリは」、「生活援助全般」、「理髪美容の状況」、「苦情・要望に対しての施設の対応」、「面会での施設の対応」、「終末期介護への取り組み」などがあり、全部で31項目に及んでいます。法人は、開所時から特養ホームで最期までの看取り介護をさせていただいていますが、「終末期介護の説明が未だ分かりにくい」という回答が2割近くありました。今後の取り組みとしては、入所時や定期的なカンファレンスの時に、調査結果を参照にして丁寧の説明を少しでも理解をしていただくことを再確認しました。この様に各施設は調査項目ごとに改善策・取り組みを検討していきます。



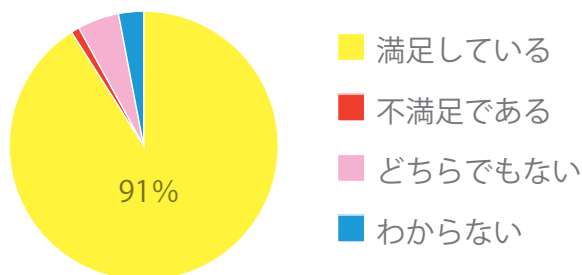
今回の調査で特養ホームのサービス全体の満足度は、法人全体は91.6%、あしたかホームは95.8%、プレーグあしたかは100%と高い満足度をいただき、例えば「スタッフの皆様が明るく笑顔で挨拶をしてくれる。雰囲気もとても明るく、この施設に決めたよかった。」などと、お褒めの言葉を多くいただきました。これに改めて感謝すると同時に、これに驕ることなく、常に初心を忘れることなくこれからも信頼され・愛される施設サービス提供を目指していきます。これまでの介護サービスの内容が高い評価を得たことに現場で働く介護職員・看護職員の方々が自信と誇りを感じ、更なる遣り甲斐を確認できたことは、何よりの成果でありました。

調査結果でいただいた資料は、今後の法人運営の貴重な資産として活用していきますと存じます。最後に、御協力いただいたご家族・利用者の皆様に感謝申し上げます。

（理事長 石川三義）

全体的な満足度結果

サービスについて全体的に満足していますか？
（全事業所集計）

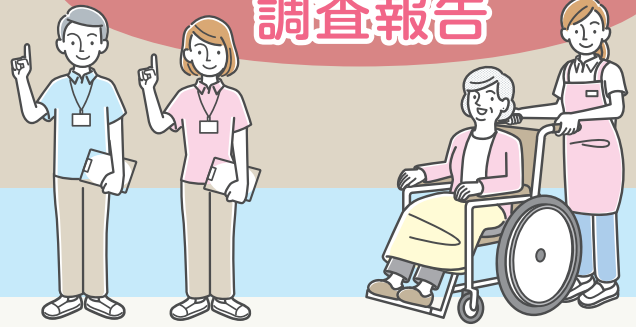


統一した調査項目

- ①当事業所を選んだ理由
- ②サービス利用後の変化について
- ③職員の応対・態度・ことば使いについて
- ④事業所の雰囲気について
- ⑤全体的な満足度について

今後、対象サービス別に調査結果等をご報告させていただきます。

働く人の満足度 調査報告

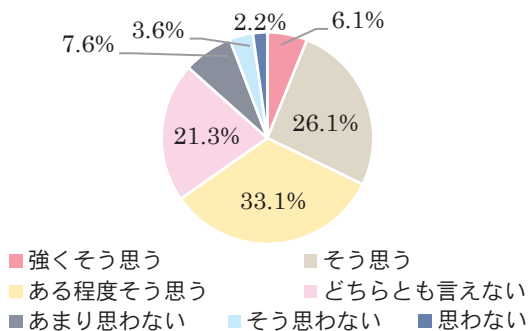


社会福祉法人春風会では、職員一人ひとりがやりがいを持ち、安心して働き続けられる職場環境の実現を目指して、2025年2月1日から20日にかけて「職員満足度調査」を実施しました。

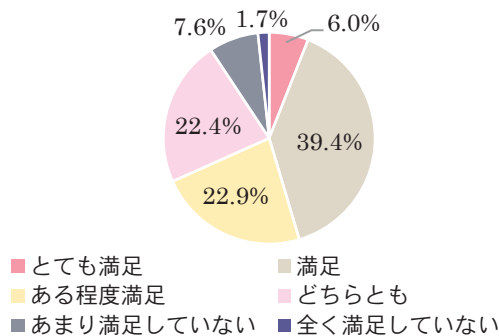
本調査は、リクルートが2023年度に行った「介護サービス業で働く人の満足度調査」の設問構成をもとに、法人の実情に合わせた内容で実施したものです。対象は法人全体で829名、そのうち686名からの回答を得て、回収率は82.8%と非常に高い結果となりました。

今回の調査では、「現在の仕事に対する満足度」や「職場にどの程度

お勤めの職場で、「(ずっと)働き続けたい」と思いますか？

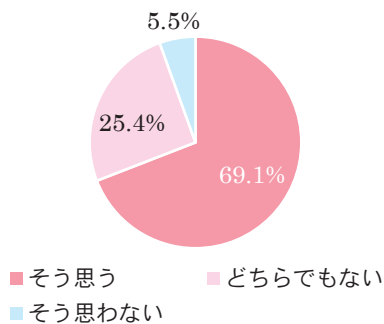


現在お勤めの職場での仕事にどの程度満足していますか？



働き続けたいと思っているか」など、働きがいや職場定着に関する26項目が設けられました。そのうち、仕事への満足度については、全体の約68

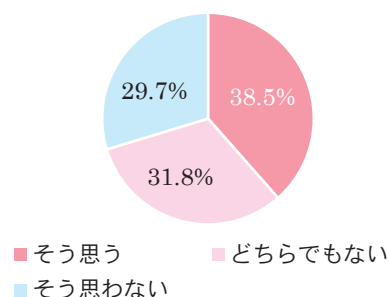
職員同士が声を掛け合い、互いに協力し合っている



3%が「満足」と回答しており、多くの職員が日々の業務にやりがいを感じながら働いていることが明らかになりました。また、「この職場で長く働き続けたい」とする回答も約65%にのぼり、法人としての安定した職場環境づくりが一定の成果を挙げていることが伺えます。

加えて、「職員同士が声を掛け合い、協力し合っているか」や「困った時に相談できる関係があるか」といった人間関係に関する設問では、肯定的な回答が多数を占めました。中でも「信頼関係が築かれている」「自分では認められていると感じる」と答えた職員が多く、春風会の職場文化が温かく支え合う風土であることを示しています。

仕事量が適量で、勤務時間内に処理ができています



一方で、「仕事量が適切であるか」「勤務時間内で業務が処理できているか」といった労働環境面について

は、やや厳しい意見も寄せられており、今後の課題として注視すべき点であると考えています。

今回の調査結果を通じて、職員の生の声を法人運営に反映させることの重要性を再確認しました。春風会では今後も定期的に満足度調査を実施し、働く人にとってより良い職場づくりに取り組んでまいります。そして、職員が胸を張って「自身が利用したい」、「働く職場として紹介したい」と思える環境を作っていくことが、利用者への質の高いサービス提供へとつながるものと信じています。

あしたかホーム巡回型ホームヘルプサービスと プレーゲ訪問看護リハビリステーション現況報告

あしたかホーム巡回型ホームヘルプサービスでは、令和5年に定期巡回・随時対応型訪問介護看護部門が新設され、早2年が経ちました。在宅のお年寄りを日中・夜間を通じて24時間365日支える目的で、一人ひとりの生活リズムに沿ったサービスを提供しています。

当初は他事業者や地域の方に24時間対応のホームヘルプサービスの認知度を浸透させることに注力しました。徐々に利用が増える中、「最期まで自宅にいたい」という思いに試行錯誤した1年間でもありました。

2年目は定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスを安定した事業にするよう取り組みました。具体的には①自宅での生活をできるだけ長く継続できる、②退院・退所後の在宅復帰が円滑にできる、③状態変化の著しい方や安否確認が必要な方を見守りができる、④緊急対応をするので安心感を得られるなどの取り組みをしました。少しずつですが、このような定期巡

回型のメリットが知られるようになり、定着化していきました。またプレーゲ訪問看護リハビリステーションとも連携し、それぞれの専門的な目線から利用者を支え、在宅生活の継続における役割を果たせつつあります。今後も利用者一人ひとりに寄り添い、住み慣れた自宅での生活をサポートしていきます。

同じく令和5年に新規事業としてスタートしたプレーゲ訪問看護リハビリステーションも地域への認知度の浸透から始まりました。沼津市内は訪問看護事業所が多い激戦区であり、最初の1年は他事業所との差別化や特色化を図りました。昨今は在宅医療が推進され、急性期から慢性期まで入院という考えは改められており、入院期間を短縮するという国の方針も加わっています。このため急性期終了後は、入院継続ではなく在宅での医療へと変わっています。この変化に対応するため、病院退院後の在宅生活における医療的なサポート、癌末期の方の支援など短期間

でのサービス提供を多く行い、2年目への土台作りをすることができました。

2年目からは新規相談が徐々に増加し、また病院からも「沼津西地区ならプレーゲ訪問看護リハビリステーション」と言ってもらえるようになりました。加えて昨年度からあしたか地域包括支援センターが主催する地域のフレイル教室に理学療法士が参加し、より地域に根差した活動もしています。

最後にあしたかホーム巡回型ホームヘルプサービスとプレーゲ訪問看護リハビリステーションが連携した事例を報告します。

癌末期でターミナルケアを行った方の事例です。当初は訪問看護で支援していましたが、急激に体調が変化し、ご家族が戸惑うことが多くなったため、多方面で支えることが出来るように定期巡回型も入るようになりました。訪問看護とヘルパーで

情報共有し、状態が悪い時には看護師とヘルパー2名で対応する事で、ご本人もご家族も安心して自宅での生活を送る事ができました。その為、医師から告げられた余命より長くご家族と過ごすことができ、家の中で花見をしたり、ひ孫と多くの時間をすごしたりと、ご本人が喜びを感じ、何より穏やかに過ごす事ができました。病院に入院してしまつたら出来なかった事を訪問看護とヘルパーがご本人の体調・体力に合わせて協力・連携し、ご本人の望みを叶えることができた事例でした。今後も両事業所ともに「自宅で暮らす」という目標のもとに、訪問看護とヘルパーが手を取り合つて、利用者を最期の時まで支えるサービスを提供していきたいと思ひます。





鮎の放流

なかいず認定こども園

なかいず認定こども園では毎年、年長児が民生委員さんの計らいで、地域の漁協組合の皆さんが用意してくださった鮎の稚魚の放流体験を行っています。今年も放流体験ができるという事で、子どもたちは事前に図鑑で鮎の事を調べたり、予想を立てたりと、この体験をとっても楽しみにしていました。

計画した日は残念ながら雨が降って延期になってしまったのですが、子どもたちは残念な思いを持ちつつも、「なんで雨が降った次の日じゃなくて、次の次の日にやるんだらう?」「次の日じゃダメなの?」と新たな疑問をもち始めました。いろいろ考え、子どもたちなりの答えを出し、漁協組合の方たちに答えを聞いてみることにしました。そして楽しみにしていた体験の日、民生委員さんや漁協組合の方に手伝ってもらいながら稚魚を両手で優しくすくいと、放流をしていました。「ぬるぬるしてるよ」「つるつるしてるよ」「黒い色だけどお腹は白いよ」「背中に金



色がある」など、実際に触る事で稚魚がどのようなものなのかを知ることができたようです。また、事前に調べたことや聞いてみたいことを漁協組合の方たちに質問すると、とても丁寧に答えてくださいました。今回の体験を通して、自分たちの住んでいる周りには豊かな自然がある事を知り、その自然をこれからも大切にしていくことを子どもたちなりに感じたようです。

地域の皆さんの協力のおかげで貴重な体験ができました。地域全体で子どもたちの成長を見守ってくださっていることを実感しました。これからも地域との交流を大切に、地元を大切にしていくという思いをもつ子が多くなっていけばいいと思います。



親子遠足

あまぎ認定こども園

「遠足はパパとママと行く」「私はママとお弁当作るの」親子遠足が近づくにつれ、当日を楽しみにする声が増えてきました。というのも、保育者が行き先のマップを保育室に拡大して掲示、空き箱や画用紙など様々な素材を使ってお弁当を制作し、遠足がさらに楽しみになるように工夫してきたのです。マップを見ながら子ども達と親子遠足を意識した会話を楽しむ姿もたくさんありました。

親子遠足当日、親子で入場ゲートをくぐる姿は笑顔でいっぱい。まずは、クラス毎で自己紹介から始まりました。三歳児クラスではお子さんの好きなところを保護者に発表してもらい「可愛い笑顔」「園では恥ずかしがりやでも家では活発のギャップ」など、愛おしさ伝わるコメントで、親子で微笑む様子がたくさん見られました。記念写真を撮影した後にはアトラクションへ。おもしろ自転車では、子どもを乗せ、「もっと早く!」とせがまれ少々疲れている保護者もいました。また、「お友達と乗りたい」と言われれば三人を乗せ、張り切る

保護者の姿も見られました。メリーゴーランドでは、お母さんと二人で乗ろうとした子に「お父さんも乗ろうよ」と誘われ、可愛らしい馬車に照れながら乗るお父さんの姿も微笑ましかったです。アトラクションを楽しんだ後は、お楽しみのお弁当!休憩所に参加者全員が集まり、クラスごと愛情たっぷりのお弁当を食べました。初めて顔を合わせる方々もいて、子ども達が保護者同士の会話の架け橋になる場面もたくさんありました。

帰りがけ、ラムネを落とした子どもに「ありさんが喜ぶね」と話すお母さん。その子も「ありさんと半分こだね」と話しかけ、優しさ溢れる場面もありました。楽しい思い出がたくさんできた一日となりました。



開設以来、この複合施設の良さを形にしたいと願い望んできたプラム。障害があっても“働く”を支援し、浸透させていきたいと考えながら積み重ねてきた様々な試み。中でも成功したデイサービスでの受託業務を紹介します。

その現れの一つは、開設当初から手掛けてきた入浴時の各種タオルの洗濯業務。職員が作業分析をし、障害特性を生かして業務に携われるよう指導支援してきました。時計を見ながら行動すること、天候を見ながら臨機応変に作業工程を考えることなど、いくつかのハードルを職員と一緒に乗り越えてきました。今では関われる利用者も増え、利用者の「憧れの作業」として位置づけられるようになりました。



した。

次の現れは、介護補助。高齢者へのお茶出しやおしぼり巻きなど。「将来は一般就労を目指します」と目を輝かせる彼女の熱意を叶えるべく、取り組んできました。利用者の能力に合わせて作業を組み立て直し、デイの職員の優しさとの確な作業指導に支えられ、お年寄りへの気配りや声かけもできるようにになりました。障害があっても環境を整えることにより、成長していく素晴らしさを私たち職員に教えてくれました。

三つめは、昨年より試みたお風呂掃除。リーダーを立て、若手の利用者たちが役割分担して行っていくなか、つまづきもありましたが、「終わりました！」の報告と達成感をのぞかせる清々しい彼らの笑顔に、私たち職員がほっこり、心が温かくなる瞬間です。

この複合施設内で工賃向上をかなえていけることは、何よりのメリットであり、私たちの目標です。そこに共生社会を目指す新たな複合施設として、より先進的に歩んでいけるよう、今後も三施設が力を合わせて盛り上げていきたいと思えます。

働 活 就 外 課

地域とつながる施設外就労

施設外就労と言えば「もくせい苑」です。年間を通じて様々な施設外での作業を行っています。

施設外でのお仕事の目的は様々で、社会福祉法人に課せられた地域貢献、利用者さんの働く意欲を養う場の提供や地域の方々に障がいのある人を理解して頂く事、また、収益を得ることで工賃向上にも繋がっています。

まず、サイクルスポーツセンターのレストランでの下膳と食器の洗浄、ぶどうの木の下剥きや袋掛け、いちごの株折り及びハウスの清掃作業と、どの作業も大変な仕事ですが利用者さんの頑張りには素晴らしいものがあります。それぞれの作業では要領よく仕事ができるようになり、出先での皆さんとの交流や「ありがとう、また頼むね」の声掛けにより、就労後には達成感で喜びを覚えるようになりました。



この様な施設外就労により地域に向いていくことは障がいのある人が住み慣れた地域で安心して生活できる一つの方策でもあり、障がい者の情報を発信することで多くの方々の理解を深め、相互が共有することで共生社会が構築されウェルビーイング、誰もが幸せになります。

これからも、多くの理解のある方々からの要望にお応えできるよう施設外就労に向いて行きたいと思えます。

令和
6年度

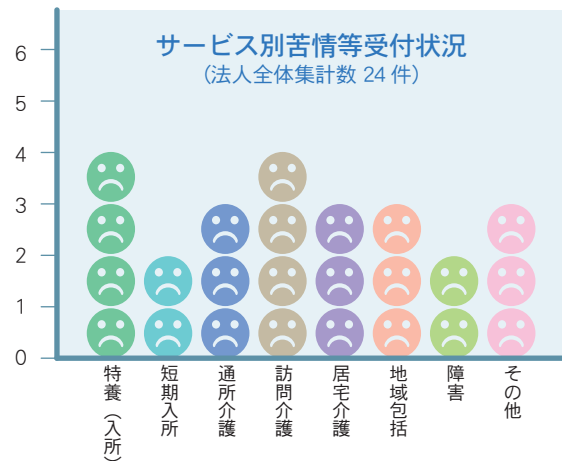
苦情・要望等受付状況報告

コミュニケーションこそが
一番大事!!

令和6年度の法人の各施設に寄せられた要望・相談や苦情等は、法人全体で24件ありました。

特養では、コロナ感染症が5類へ移行となり、家族面会等の制限も一部を除き解除されましたが短期入所事業も併せご家族からの苦情は7件と少なかった状況です。反面、訪問介護サービス、居宅介護支援事業等の在宅サービス、及び地域包括支援センターに対する苦情やご意見は13件と多くいただき、その中には施設公用車の運転マナーに対するご意見もありました。苦情の多くは毎年共通しているところですが、相互の情報共有不足によるボタンの掛け違いや感情の行き違いによるものと思えます。利用者、ご家族とコミュニケーションを十分に図り、課題を共有して意見交換をすることで、多くの苦情・要望は未然に防ぐことが出来たのではないかと思います。

私たちは、利用者・ご家族との信頼関係構築により一層注力し、これからも安心・安全なサービス提供に取り組んでまいります。



社会福祉法人
春風会

介護職員初任者研修 講座開講のお知らせ

社会福祉法人春風会では、今年度の介護職員初任者研修について、以下の日程にて講座を開講します。なお、受講者募集や受講料等の要綱につきましては、決まり次第ホームページにて公開いたします。

沼津
地区

令和7年9月9日(火)～令和7年11月18日(火)
火曜日・金曜日の週2日の講義
会場：プレーグあしたか

伊豆
地区

令和7年9月10日(水)～令和7年11月19日(水)
水曜日・土曜日の週2日の講義
会場：プレーグおおひと



●春風会法人本部・特別養護老人ホームあしたかホーム
〒410-0302 沼津市東椎路1742-1
TEL (055) 967-1166 (代) FAX (055) 967-3566

●特別養護老人ホーム伊豆中央ケアセンター
〒410-2402 伊豆市大野304
TEL (0558) 72-8111 (代) FAX (0558) 72-7297

●特別養護老人ホームぬくもりの里
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-29
TEL (0558) 76-6700 (代) FAX (0558) 76-7511

●特別養護老人ホームみはるの丘浮島
〒410-0318 沼津市平沼929-1
TEL (055) 969-3355 (代) FAX (055) 969-3385

●障害サービス 生活介護 沼津虹の家
〒410-0302 沼津市東椎路1742-1
TEL (055) 967-2220 (代) FAX (055) 967-3566

●障害サービス 生活介護 あおばの家
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-47
TEL (0558) 76-6702 (代) FAX (0558) 76-6702

●障害サービス 就労継続支援B型 もくせい苑
〒410-0312 沼津市原1200-3
TEL・FAX (0558) 76-6755

●原高齢者福祉センター
〒410-0312 沼津市原1200-3
TEL (055) 968-4510 (代) FAX (055) 968-4511

●ふれあいデイサービス(デイサービス一般型)
〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ
TEL (0558) 83-3380 (代) FAX (0558) 83-3380

●天城放課後児童クラブ
〒410-3213 伊豆市青羽根47
TEL (0558) 87-1080

●中伊豆放課後児童クラブ
〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ
TEL (0558) 83-2911

●救護施設 沼津市立高尾園
〒410-0001 沼津市足高156-1
TEL (055) 921-5722 (代) FAX (055) 921-5723

●ケアハウスはるかぜ
〒410-0318 沼津市平沼929-1
TEL (055) 969-3382 (代) FAX (055) 969-3385

●小規模多機能施設 北狩野ケアセンター
〒410-2401 伊豆市牧之郷116番地
TEL (0558) 72-8811 FAX (0558) 72-8860

●地域密着型特別養護老人ホーム プレーグあしたか
〒410-0302 沼津市東椎路1639-1
TEL (055) 967-3400 (代) FAX (055) 967-3401

●地域密着型介護老人福祉施設 プレーグおおひと
〒410-2318 伊豆の国市白山堂408-9
TEL (0558) 76-7300 FAX (0558) 76-7299

●障害サービス グループホーム などの家
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-437
TEL・FAX (0558) 77-1017

●地域活動支援センター サポートセンター絆
〒410-2315 伊豆の国市田京1259-293
TEL・FAX (0558) 77-1221

●複合施設 ふらっと月ヶ瀬
〒410-3215 伊豆市月ヶ瀬408-1

●あまぎ認定こども園
TEL (0558) 85-2030 FAX (0558) 75-8880

●あまぎデイサービス(デイサービス一般型)
TEL (0558) 85-0816 FAX (0558) 75-8201

●就労継続支援B型 事業所プラム(障害サービス)
TEL (0558) 85-1919 FAX (0558) 75-8201

●プラムカフェ
TEL (0558) 85-2551 FAX (0558) 75-8201

●片浜・今沢地域包括支援センター
〒410-0874 沼津市松長12-3
TEL (055) 969-7050 FAX (055) 968-2177

●伊豆市修善寺地区地域包括支援センター
〒410-2414 伊豆市本立野531-1
TEL (0558) 99-9301 FAX (0558) 99-9302

●なかいず認定こども園
〒410-2505 伊豆市八幡282-1
TEL (0558) 75-2810 FAX (0558) 75-2811

●はら居宅介護支援事業所
〒410-0311 沼津市原町中2-7-11
TEL (055) 941-8333 FAX (055) 941-8334